Ⅱ－1
おとぎ話の絨毯―さらに「歩く好奇心」について

『フィンランド語の世界を読む』の 10 課では Helsinki にある Oodi 図書館を取り上げました。その Oodi 図書館には多くの芸術作品が置かれており、Oodi のホームページ［https://oodihelsinki.fi/］で「Mikä Oodi?」>「Taide」と進むと多くの芸術作品が掲載されています。なかでも目を引くのが Taidematot「芸術絨毯」ではないかと思います。それぞれの絨毯そのものは Oodi のホームページで見てください。絨毯は次の 7 つのテーマにもとづきデザイン・作成されています。

●Satumatto「おとぎ話の絨毯」
●Tuonen hauki「死のカワカマス」
●Aleksis Kiven kuolinmökki「Aleksis Kivi の死の小屋」
●Minna Canth
●Mika Waltari
●Tove Jansson
●Pentti Saarikoski

これら 7 つの絨毯をきっかけにフィンランド文学について 7 つの資料を公開していくことにします。まず本課では Satumatto のデザイナーである Marika さんの言葉を読んだ後で、人気の絵本 Tatu ja Patu シリーズについて新聞記事や作品からの抜粋を見ていくことにします。なお、日本語訳の中で私が加える注や補足は〈　〉の中に入れておきます。

【1】「おとぎ話の絨毯」のデザイナーMarika Maijala さんの言葉

Halusin suunnitella Oodiin metsänvihreän maton, jonka päällä pienet ja isommat kirjastovieraat voisivat viipyä, lueskella ja kuvitella omia tarinoitaan. Lainasin Pasilan kirjastosta kuvitusta varten suomalaisia ihmesatuja ja annoin niiden mennä päässäni sekaisin. Yleensäkin pidän kuvittamisessa eniten hahmojen luomisesta ja siksi poimin mattoon saduista omia suosikkihahmojani: ahmattimaisen jättiläistytön, pojan jonka päähän kasvoi sarvi hänen syötyään taikaomenan, lapset jotka muuttuivat linnuiksi, tytön joka kulki rautasaappaat jalassa. Satujen, kuten kirjastonkin, henkilökavalkadi on moninainen, ei pelkästään prinsessoja ja talonpoikia.

■語句・文法

metsän-vihreä「森のような緑色の」／päällä「～の上で」⇒ päältä, päälle／isommat［複主］< isompi 比 < iso／lueskella「（パラパラと）読む」< lukea／kuvitella「想像する」< kuvittaa < kuva／Pasila は Helsinki 中心部から北へ 3 キロほどのところの地区／kuvitus「（挿）絵（を描くこと）」< kuvittaa < kuva／ihme-satu「おとぎ話」／sekaisin「混乱して、混ざり合って」／yleensä「一般的に、

ふつうは」／hahmo「登場人物」／luomisesta「創作すること」動名［出］ < luoda／suosikki「お気に入り」< suosia／ahmattimainen「食いしん坊の」／jättiläis- < jättiläinen「巨人（の）」／syötyään「食べた後で」受過分［分］+単 3 所接〔時構〕／taika「魔法」／kavalkadi「行進、行列」／moninainen「多様な」／talon-poika「農夫」

●フィンランド語理解のための訳例

私はデザインしたかった｜Oodi のために｜森の緑色をした絨毯を、｜その上で小さな、そしてより大きな図書館来館者たちがのんびりとしたり、読書をしたり、自分の物語を想像したりできるような。私は Pasila 図書館から借りた｜絵を描くために｜フィンランドのおとぎ話を｜そして、［させておいた｜それらが私の頭の中でごちゃごちゃになるように］。そもそも私は好きだ｜絵を描く中で一番｜登場人物を創り出すことが｜だから絨毯のために拾い出した｜おとぎ話の中から｜自分のお気に入りの登場人物たちを｜：大食いの巨大な少女を｜［少年を｜その頭に角が生えた｜彼が魔法のリンゴを食べた後で、］｜［子どもたちを｜彼らは鳥に変身した］｜［少女を｜彼女は鉄の長靴を履いて歩く］。おとぎ話の、｜図書館のと同じように、｜登場人物の行列は多様である、｜ただお姫様や農夫だけではない。

◎意訳

図書館の小さな訪問者も大きな訪問者もその上でのんびりしたり、読書をしたり、自分のお話を想像したりできるような、そんな森のような緑色をした絨毯を Oodi のためにデザインしたいと私は思った。図案を考えるために、Pasila の図書館からフィンランドのおとぎ話を借り出し、それらが私の頭の中でごちゃ混ぜになるようにさせておいた。そもそも絵を描く中で、私は登場人物を創り出すことがもっとも好きで、そのためお話の中から絨毯のために、私はお気に入りの登場人物たちを拾い上げた：大食いの巨人の娘、魔法のリンゴを食べた後で頭に角が生えた少年、鳥に変身した子どもたち、鉄の長靴を履いて歩く少女。図書館を訪れる人々の行列と同様に、お話の中の登場人物の行列も多彩であり、そこにいるのはお姫様たちや農民たちだけではない。

★補足

①色の名前

Kielitoimiston sanakirja［https://www.kielitoimistonsanakirja.fi/#/］には metsän-vihreä という見出し語は見つかりませんが、なんとなくイメージはできます（これが翻訳借用なのかどうか、わからないのですが）。そのほかに次のような色の名前が少し気になっています。おそらく多くが翻訳借用だと思いますが、正式にどのような色を表すのかは各自で確認してください。以下では直訳しておきます。

lumi-valkoinen「雪のように白い」
hiekan-ruskea「砂のような茶色の」
suklaan-ruskea「チョコレートのような茶色の」
kastanjan-ruskea「栗のような茶色の」
luumun-punainen「プラムのように赤い」

lohen-punainen「鮭のように赤い」
oranssin-punainen「オレンジのように赤い」
kevään-vihreä「春のような緑色の」
veden-vihreä「水のような緑色の」
meren-vihreä「海のような緑色の」
taivaan-sininen「空のように青い」
teräksen-sininen「鋼のように青い」
laivaston-sininen「船団の青さの」
yön-sininen「夜の青さの」

②Tatu ja Patu シリーズについて

さて、現在のフィンランドでもっとも人気のある絵本の一つが Tatu ja Patu のシリーズだと思います。二人の男の子が主人公のこのシリーズは、現代のおとぎ話かもしれません。そのシリーズの作品は、だいたい次のような書き出しで始まるようです。

【2】Tatu ja Patu の書き出しはだいたいこんな感じ

Tatu ja Patu ovat veljekset, jotka käyttäytyvät välillä vähän kummallisesti. He ovatkin kotoisin Outolasta, jossa asiat tehdään eri tavalla kuin meillä. Innokkaina ja uteliaina Tatu ja Patu tutkivat ihmeellistä maailmaamme aina valmiina uusiin seikkailuihin.

■語句・文法

veljekset < veljes「（ふつう複数形で）兄弟」< veli（sisarukset「兄弟姉妹」< sisar／siskokset「姉妹」< sisko／serkukset「いとこ同士」< serkku）／käyttäytyä「振る舞う」< käyttää／Outola「ヘンテコ村」（-la/-lä は場所を表す接辞：kahvila「喫茶店」< kahvi）」／innokkaina「熱心に」［複様］ < innokas < into／uteliaina「好奇心旺盛に」［複様］ < utelias

●フィンランド語理解のための訳例

Tatu と Patu は兄弟だ、|彼らはときに少しおかしな振る舞いをする。彼らは「ヘンテコこ村」の出身だ、|そこでは物事はする|［違うやり方で|私たちのところとは］。夢中になって、そして好奇心旺盛に|Tatu と Patu は調査する|不思議な我々の世界を|［いつも準備ができた状態で|新しい冒険へ］。

◎意訳

Tatu と Patu はときには少し奇妙なふるまいをする兄弟だ。というのも彼らはヘンテコ村の出身で、そこでは物事は我々のところとは違う方法でやるからだ。いつでも新しい冒険に出かける準備ができている Tatu と Patu は、熱意にあふれ、そして好奇心旺盛に不思議な我々の世界を調査するのである。

★補足

Tatu ja Patu シリーズの作者は Aino Havukainen さんと Sami Toivonen さんです。次はお二人にインタビューをした新聞記事を見ていきますが、どうやら商品開発には厳しい条件をつけているようで、商品化されているのは紙製のゲームくらいだそうです。

【3】Havukainen さんと Toivonen さんの考え方

He ovat myöntäneet luvan Tatu a Patu -tuotteisiin vain yhdelle firmalle, raisiolaiselle Martinexille. Tuotteet ovat paperista tehtyjä palapelejä ja lautapelejä.
[…]

Lisäksi Otava-kustantamo on tehnyt puuha-, muisti- ja vauvakirjoja, niin ikään paperitavaraa.

■語句・文法

myöntää「認める、許可する」／tuotteisiin「製品のために」［複入］< tuote < tuottaa < tuoda／firma「企業」／raisiolainen「Raisio の」（Raisio は南西フィンランドの都市）／Martinex は家庭用品やおもちゃなどを扱う企業／paperista tehtyjä「紙から作られたような」（tehtyjä 受過分［複分］< tehdä）／pala-peli「ジグソーパズル」／lauta-peli「ボードゲーム」／Otava は Tatu ja Patu シリーズを出版している出版社／kustantamo「出版社」< kustantaa／puuha-kirja「塗り絵本（塗り絵や作業をするための本）」／muisti-kirja「ノート」（= muistiin-pano-kirja）／vauva-kirja「赤ちゃんのための本（赤ちゃん用の色彩豊かな本、あるいは赤ちゃんの成長などを記録するための本）」／paperi-tavara「紙製品、文房具」

●フィンランド語理解のための訳例

彼らは認めている｜許可を｜Tatu ja Patu 製品のための｜ただ一つの企業にだけ｜Raisio の Martinex 社に。製品は紙から作られたジグソーパズルとボードゲームだ。
［...］

加えて｜Otava 出版社は作っている｜塗り絵本、ノート、赤ちゃんのための本を、｜同じく紙製品を。

◎意訳

彼らは Tatu a Patu 製品のライセンスを Raisio の Martinex 社 1 社にしか認めていない。その製品とは紙でできたジグソーパズルやボードゲームである。

また、Otava 出版は塗り絵など作業をする本、ノート、そして赤ちゃんの本を制作しており、同じく紙製品（文房具）も制作している。

【4】製品が満たさなければならない条件とは

On vain niin monta ehtoa, jotka tuotteiden pitäisi täyttää, että sopivia ratkaisuja ei tahdo löytyä.

Havukainen ja Toivonen luettelevat vaatimuksiaan: eettinen, ekologinen, esteettinen, laadukas, Tatu ja Patu -henkinen. Tuotteiden pitäisi olla sellainen, jonka kirjailijat voisivat itse ostaa, ja tietysti riittävän edullinen, jotta mahdollisimman monella perheellä olisi siihen varaa.

■語句・文法

tuotteiden pitäisi täyttää「製品は満たさなければならない」（tuotteiden［複属］< tuote）／ei tahdo löytyä「見つかろうとしない」（tahtoa「（望ましくないことを）しがちである」）／luetella「読み上げる、一覧にする」< lukea／vaatimuksiaan「自らの要求を」［複分］＋複 3 所接 < vaatimus < vaatia／eettinen「倫理的な」／esteettinen「美学の、芸術的な」／laadukas「良質な」< laatu／-henkinen「～的精神の」／mahdollisimman「できるだけ」［属］< mahdollisin 最 < mahdollinen／siihen varaa「そのための（金銭的）余裕」

●フィンランド語理解のための訳例

ただ多くの条件がある|それらを製品が満たさなければならないような|なので、適切な解決策が見つからない。

Havukaintn と Toivanen は挙げる|自分たちの要求を：倫理的であること、エコであること、美的であること、高品質であること、Tatu ja Patu の精神に則ったものであること。製品は〈次のようで〉なければならない|それを作者たち自身も買える、|そしてもちろん十分に手頃な、|できるだけ多くの家庭にそのための余裕があるような。

◎意訳

ただ、製品が満たさなければならない条件があまりにも多いので、適当な解決策が見つからないのだ。

Havukainen と Toivanen は自分たちの要求するところを並べていく：〈製品は〉倫理的で、生態的にやさしく、美的であり、高品質で、Tatu ja Patu 的精神に沿ったものでなければならない。製品は作者たちでも買えるようなものでなければならないだろうし、もちろん、できるだけ多くの家庭に買うだけの金銭的余裕があるよう十分に手頃な価格でなければならないだろう。

【5】物であふれかえる世界、もっと増やす必要なんてあるの？

”Mutta kun maailma hukkuu tavaraan. Haluammeko me olla osaltamme lisäämässä sitä?”

Paperituotteet kelpaavat, koska ne voi kierrättää, ovat edullisia ja viime kädessä vieläpä maatuvat.

■語句・文法

hukkua「溺れる」／osaltamme「我々に関して、我々の側から」［奪］+複 1 所接 < osa／kierrättää「リサイクルする」< kiertää（名詞は kierrätys「リサイクル」）／maatua「分解する、土に還る」< maa

●フィンランド語理解のための訳例

「しかし世界が物の中へと溺れようとしているときに。私たちはしたいと思うでしょうか|私たちでそれを増やすことを。」

紙製品なら大丈夫だ、|なぜなら、それらはリサイクルできる、|安価で最終的にはさらに分解するからだ。

◎意訳

「しかし、物で世界が溺れようとしているときに。私たちは私たちでそれを増やしたいと思うでしょうか。」

紙の製品なら大丈夫だろう。なぜなら、それらはリサイクルできるし、値段も手ごろで、そして最終的にはさらに土に還っていくのだから。

【6】Tatu と Patu は男の子、それとも？

Havukainen ja Toivonen sanovat, että sukupuolta ei välttämättä olisi tarvinnut kertoa lainkaan. Outolasta Suomeen saapuvat Tatu ja Patu ovat pikemminkin ”käveleviä uteliaisuuksia” kuin maskuliinisia tai feminiinisiä ihmisiä.

■語句・文法

saapuvat「到着するような」 能現分［複主］ < saapua／pikemminkin「むしろ」／käveleviä「歩くような」能現分［複分］< kävellä／uteliaisuus「好奇心」< utelias／maskuliininen「男性の、男性的な／feminiininen「女性の、女性的な」」

●フィンランド語理解のための訳例

Havukainen と Toivonen は言う、|性別のことは必ずしもまったく語る必要などなかっただろう。ヘンテコ村からフィンランドへ到着する Tatu と Patu はむしろ「歩く好奇心」だ|男性的、あるいは女性的な人間というより。

◎意訳

性別のことは必ずしも話す必要などまったくなかっただろうと Havukainen と Toivanen は言っている。ヘンテコ村からフィンランドへやってきた Tatu と Patu は男性的な人間だとか女性的な人間だとかというよりも、むしろ「歩く好奇心」といったところである。

【7】グローバルだけではなくフィンランドらしさも

”Tavallaan olisi kiva tarjota suomalaisille lapsille suomalaiseen sisältöön pohjautuvaa kamaa. Ettei olisi vain niitä ylikansallisia”, Havukainen sanoo.

■語句・文法

tavallaan「ある意味で」< tapa／pohjautuvaa「もとづくような」能現分［分］< pohjautua < pohja／kama「物、代物」／ettei「～でないように」（= että + ei）／yli-kansallinen「超国家的な」

●フィンランド語理解のための訳例

「ある意味ですてきだろう｜提供することは｜フィンランドの子どもたちに｜フィンランド的な内容にもとづくものを。｜ただグローバルなものだけではなく」と Havukainen は言う。

◎意訳

「フィンランドの子どもたちにはフィンランド的な内容にもとづくようなものを提供したら、ある意味ですてきなことだろう。ただ例のグローバルなものだけではなくてね」と Havukainen は言う。

★補足

さて、Tatu ja Patu シリーズの絵本はすでに 20 冊ほど刊行されているようですが、その中でもフィンランドらしさにあふれたのが *Tatun ja Patun Suomi* です。この本を他の言語に翻訳するのはほぼ不可能だと思います。ですので、この作品を読めるだけでも「フィンランド語を勉強する価値あり」です。それでは同作品から少し抜粋して見ていくことにします。絵本の中では「まじめな」話もあれば、「ふざけた」部分ももちろんあります。まずは冒頭部分を見たうえで、歴史劇のなかから「まじめな」歴史の話を取り上げていきます。その後では、フィンランドの言語についての「広告」、経済ニュースや社会ニュースを見ていき、最後に「典型的なフィンランド人」の特徴をいくつか見ていきます。ただし、いつか自分で *Tatun ja Patun Suomi* を読んでみたいという方は、そのときのために楽しみは取っておいてください（つまり、これ以上先へは進まないでください）。

【8】*Tatun ja Patun Suomi* の冒頭部分です

”Tervetuloa kiehtovalle matkalle Suomeen, tuohon kaukaiseen pohjolan maahan, jossa ihmiset ruokkivat kesäöisin joulupukkia grillimakkaralla ja heittävät kahvia kiukaalle”, professori Patu toivottaa. ”Meniköhän se nyt ihan oikein?” tohtori Tatu miettii. ”No, joka tapauksessa, tervetuloa tuhansien hyttysten maahan – vai oliko se järvien?

■語句・文法

kiehtova「魅了するような」能現分 < kiehtoa／pohjola「北国；北欧諸国」< pohja／ruokkia「食べさせる」⇒ ruoka／öisin「毎晩」< yö／grilli-makkara「グリル用ソーセージ」／kiukaalle 「サウナ・ストーブへ」［向］< kiuas（サウナ・ストーブにかけるのは「水」であって「コーヒー」をかけるのは約束違反だろうと思う）／meniköhän oikein「はたしてうまくいったか」／hyttysten「蚊たちの」［複属］<

hyttynen（tuhansien järvien maa「数千の湖の国」はフィンランドについて語るときに必ずのように使われる、フィンランドを表す決まり文句）

●フィンランド語理解のための訳例

［ようこそ｜わくわくするような旅へ｜フィンランドへの｜あの遠い北の国への］、｜［そこでは人々は食べさせる｜夏の夜にサンタクロースにグリル・ソーセージを］｜［そしてコーヒーをかける｜サウナ・ストーブに］」と Patu 教授は歓迎する。「それで正しかったかな」と Tatu 博士は考え込む。「まあ、いずれにしても、［ようこそ｜数千もの蚊の国へ］―それとも「湖の」、だったか？

◎意訳

「夏の夜になると人々がサンタクロースに大きなソーセージを食べさせ、そしてサウナ・ストーブにコーヒーを投げかけるような、あの遠い北の国、そうフィンランドへの魅惑的な旅へようこそ」と Patu 教授は歓迎の言葉を述べる。「ところで今のは合っていただろうか」と Tatu 博士は考え込む。「まあ、いずれにしても、数千の蚊の国へようこそ―いやいや「湖の」、だったかな。

【9】歴史劇の第 1 幕は「中世」

1. näytös: Keskiaika

1150-1520

Keskiajalla Suomessa eli vielä vähän ihmisiä. Tavallinen kansa asui savupirteissä. Elannokseen he viljelivät maata, kalastivat ja metsästivät. Suomen valtiota ei ollut vielä olemassa. Suomen alueen hallinnasta taistelivat Ruotsi ja Novgorod. Keskiajalla rakennettiin kirkkoja, kaupunkeja ja linnoja.

■語句・文法

näytös「（演劇の）幕」< näytös／savu-pirteissä「丸太小屋に」［複内］< savu-pirtti（savu は「煙」という意味だが、savu-pirtti には石をくべる暖房用の炉があるが煙突はなかったため、小屋に充満する煙は小さな通気口から外へ出た）／elannokseen「生活（の）ために、生計を立てるために」［変］＋複 3 所接 < elanto < elää／viljellä「耕す」／on olemassa「存在する」（olemassa MA 不［内］< olla）／hallinnasta「支配について」［出］< hallinta < hallita

●フィンランド語理解のための訳例

第 1 幕：中世

1150-1520

中世の時代に｜フィンランドでは、まだ少しの人々が生活していた。ふつうの民衆は住んでいた｜丸太小屋に。生計を立てるために｜彼らは土地を耕し、漁をし、狩猟をした。フィンランドという国家はまだ存在していなかった。フィンランド地域の支配権について｜争っていた｜スウェーデンとノヴゴロドが。中世の時代には建てられた｜教会、町、そして城が。

◎意訳

中世には、フィンランドにはまだ少数の人々しか暮らしていなかった。ふつうの民衆は丸太小屋に住んでいた。生計を立てるために彼らは土地を耕し、魚をとり、あるいは狩猟をしていた。フィンランドという国家はまだ存在していなかった。フィンランド地域の領有権についてスウェーデンとノヴゴロドが争っていた。中世には教会、町、そして城が建てられた。

【10】歴史劇の第 2 幕は「スウェーデン統治の時代」

2. näytös: Ruotsin vallan aika
n. 1200-1809

Suomi on pitkään osa Ruotsia, ja maata hallitsivat Ruotsin kuninkaat. Turku oli Suomen pääkaupunki, ja Turun linnassa vietettiin hovielämää. Suurin osa kansasta oli talonpoikia. Suomen kirjakieli syntyi, ja ensimmäiset suomenkieliset kirjat ilmestyivät. 1600-luvulla Turkuun perustettiin yliopisto ja postinkuljetus alkoi.

■語句・文法

vietettiin「過ごしていた」受過 < viettää／hovi-elämä「宮廷生活」／kirja-kieli「書き言葉」／postin-kuljetus「郵便の輸送」

●フィンランド語理解のための訳例

第 2 幕：スウェーデン帝国
約 1200-1809

フィンランドは長い間スウェーデンの一部だった、|そして国を治めていた|スウェーデン王が。Turku はフィンランドの首都だったで、|そして Turku 城の中では送っていた|宮廷生活を。民衆の大部分は農民だった。フィンランド語の書き言葉が生まれた、|そして最初のフィンランド語の本が現れた。1600 年代には Turku に設立された|大学が、|そして郵便の輸送事業が始まった。

◎意訳

フィンランドは長い間スウェーデンの一部であり、国はスウェーデン王が統治していた。Turku がフィンランドの首都であり、Turku 城では宮廷生活が営まれていた。民衆の大部分は農民であった。フィンランド語の書き言葉が生まれ、フィンランド語で書かれた最初の本が出版された。1600 年代には Turku に大学が設立され、そして郵便事業が始まった。

【11】歴史劇の第 3 幕は「ロシア支配の時代」

3. näytös: Venäjän vallan aika
1809-1917

Vuonna 1809 Ruotsi menetti Suomen alueen Venäjälle, ja Suomea hallitsivat nyt Venäjän keisarit. Uudeksi pääkaupungiksi tuli Helsinki. Ensimmäiset rautatiet rakennettiin, teollisuus alkoi kehittyä ja perustettiin ensimmäiset kansakoulut.

■語句・文法

keisari「皇帝、天皇」／kansa-koulu「国民学校」

●フィンランド語理解のための訳例

第 3 幕：ロシア支配の時代

1809-1917

1809 年にスウェーデンは失った｜フィンランドの地域を｜ロシアに、｜そしてフィンランドを支配した｜今やロシア皇帝たちが。新しい首都になった｜ヘルシンキが。最初の鉄道が建設された、｜産業が発展し始めた｜そして、設立された｜最初の国民学校が。

◎意訳

1809 年にスウェーデンはフィンランドの地域をロシアに譲ることになり、そしてフィンランドはロシア皇帝が統治することになった。新しい首都となったのは Helsinki であった。最初の鉄道が敷かれ、産業が発展し始め、そして最初の国民学校が設立された。

【12】歴史劇の第 4 幕は「独立フィンランド」

4. näytös: Itsenäinen Suomi

1917-

Vuonna 1917 Suomesta tuli itsenäinen valtio, eli se ei kuulunut enää Ruotsiin tai Venäjään. Suomen ensimmäiseksi presidentiksi valittiin K. J. Ståhlberg. Autot ilmestyivät Suomen teille, radiolähetykset alkoivat ja elokuvateattereita avattiin.

■語句・文法

Kaarlo Juho Ståhlberg（1865-1952）はフィンランドの初代大統領／radio-lähetykset「ラジオ方法」（lähetykset［複主］< lähetys < lähettää < lähteä）

●フィンランド語理解のための訳例

第 4 幕：フィンランド独立国

1917 年−

1917 年にフィンランドは独立国になった、｜つまりそれは属さなかった｜もはやスウェーデンやロシアに。フィンランドの最初の大統領に選ばれた｜K.J. Ståhlberg が。自動車が現れた｜フィンランドの道路に、｜ラジオ放送が始まり｜そして映画館がオープンした。

◎意訳

1917 年にフィンランドは独立国になり、つまり、もはやスウェーデンやロシアに属することはなくなった。フィンランドの最初の大統領として K.J. Ståhlberg が選出された。フィンランドの道路に自動車が現れ、ラジオ放送が始まり、そして映画館がオープンした。

【13】歴史劇の第 5 幕は「1940 年代から 1950 年代」

5. näytös: 1940-1950 -luvut

Vuosina 1939-1944 Suomi oli kahdesti sodassa Neuvostoliiton kanssa. Silloin elettiin pula-aikaa. Ruokaa ja tavaroita oli vähän. Rauha solmittiin vuonna 1944. Suomi pysyi itsenäisenä valtiona.

■語句・文法

pula-aika「困窮期、物不足の時代」

●フィンランド語理解のための訳例

第 5 幕：1940 年代～1950 年代

1939 年から 1944 年に｜フィンランドは 2 度戦争の中にあった｜ソビエト連邦と。そのころは生きていた｜物不足の時代を。食料や物資が少なかった。和平は締結された｜1944 年に。フィンランドは存続した｜独立国家として。

◎意訳

1939 年から 1944 年にかけてフィンランドは 2 度にわたってソビエト連邦と戦争をした。人々は物不足の時代を生きていた。食料も物資も不足していた。1944 年に和平が成立した。フィンランドは独立国家として存続した。

【14】歴史劇の第 6 幕は「1960 年代から 1980 年代」

6. näytös: 1960-1980 -luvut

1960- ja 1970-luvulla monet perheet muuttivat maalta kaupunkiin töihin. Viikonloput olivat vapaat ja koko perhe vietti paljon aikaa yhdessä. Televisio yleistyi kodeissa, ja alettiin tehdä seuramatkoja ulkomaille.

■語句・文法

seura-matka「団体旅行

●フィンランド語理解のための訳例

第 6 幕：1960 年代～1980 年代

1960 年代から 1970 年代に｜多くの家族が引っ越した｜地方から都会へ｜仕事へ。週末は自由だった｜そして家族全員が過ごした｜多くの時間を一緒に。テレビが一般的になった｜家庭において、｜し始めた｜団体旅行を｜海外への。

◎意訳

1960 年代から 1970 年代には多くの家族が仕事のために田舎から都会に移り住んだ。週末は自由であり、家族全員が多くの時間を一緒に過ごした。テレビが一般家庭に普及し、海外への団体旅行が始まった。

【15】話題変わって広告へ―提供されているのは 3 つの言語

Haluatko sinä käyttää kieltä, jossa on satoja sanoja lumelle? Kieltä, jossa käytetään maailman eniten vokaaleja! Kieltä, joka kuulostaa kauniilta myös laulettuna! Tämä kieli on juuri sinulle, ala sinäkin käyttää kaunista suomen kieltä!

Jo 6 miljoonaa tyytyväistä käyttäjää!

■語句・文法

eniten「もっとも多く」最 ＜paljon／laulettuna「歌われた状態で」受過分［様］＜laulaa

●フィンランド語理解のための訳例

あなたは使いたいか｜言語を、｜その中では数百の単語がある｜雪に対して。言語を｜その中では使われる｜世界でもっとも多く母音が！言語を｜それは聞こえる｜美しく｜歌われても！この言語はまさにあなたのためにある、｜あなたも使い始めなさい｜美しいフィンランド語を！

すでに 600 万人もの満足した利用者が！

◎意訳

雪を表す単語が何百もある言語を使いたいですか。世界でもっとも多く母音が使用される言語を！歌っても美しく聞こえる言語を！この言語はまさにあなたのためにあるのです。あなたも美しいフィンランド語を使い始めましょう！

満足と回答する利用者の数、すでに 600 万！

【16】すばらしいおまけまでついてくる

MAHTAVA LISÄETU!

Mikäli alat käyttää suomen kieltä kahden kuukauden sisällä, tarjoamme sinulle kaupan päälle pisimmän Suomen kielessä käytetyn yhdyssanan:
lentokonesuihkuturbiinimoottoriapumekaanikkoaliupseerioppilas

■語句・文法

mahtava「すばらしい」／lisä-etu「追加の利益、特典」／mikäli「～する限りでは」／kaupan päälle

「おまけとして（取引の上に）」／pisimmän「もっとも長い」［属対］< pisin 最 < pitkä／käytetyn「使われるような」受過分［属対］< käyttää／yhdys-sana「複合語、合成語」／suihku「ジェット、シャワー」／turbiini「タービン」／apu-「助手の」／mekaanikko「機械工、整備士」／ali-「下の」／upseeri「士官、将校」

●フィンランド語理解のための訳例

すばらしい特典！
あなたが使い始める限り｜フィンランド語を｜2 ヶ月以内に、｜我々は提供する｜あなたに｜おまけとして｜もっとも長いフィンランド語で使われる合成語を：
航空機｜ジェット｜タービン｜エンジン｜整備士助手｜下士官｜見習い

◎意訳

すばらしい特典も！
もしフィンランド語を 2 か月以内にお使いになり始めるのであれば、フィンランド語で使われる最長の合成語をおまけとして進呈します：
「航空機ターボシャフトエンジン整備士助手下士官候補生」

★補足

lentokonesuihkuturbiinimoottoriapumekaanikkoaliupseerioppilas が何を意味するのか、私にはわかりませんので。

【17】スウェーデン語も選択できます

Suomen kielen lisäksi sinulla on valittavanasi myös Suomen toinen VIRALLINEN kieli eli RUOTSI
TIESITKÖ!
Suomenruotsalaiset ovat Suomessa syntyneitä ja asuvia suomalaisia, jotka puhuvat äidinkielenään ruotsia.

■語句・文法

valittavanasi「あなたが選択できるものとして」受現分［様］＋単 2 所接 < valita／virallinen「公式の」／syntyneitä「生まれたような」能現分［複分］< syntyä／asuvia「住んでいるような」能現分［複分］< asua／äidin-kielenään「自らの母語として」［様］+ 複 3 所接 < -kieli

●フィンランド語理解のための訳例

フィンランド語に加えて｜あなたにはある｜あなたが選べるものとして｜またフィンランドのもう一つの公用語｜つまりスウェーデン語が。
知っているか！
スウェーデン語系フィンランド人は｜フィンランドで生まれ、そして住んでいるフィンランド人だ、｜彼らは話す｜自らの母語としてスウェーデン語を。

◎意訳
フィンランド語に加えて、あなたにはフィンランドのもうひとつの公用語、スウェーデン語という選択肢もあるのです。
ご存知ですか。
スウェーデン語系フィンランド人というのは、フィンランドで生まれ、フィンランドに住んでいるフィンランド人のことであり、彼らはスウェーデン語を母語としています。

【18】さらにサーミ語も
EIKÄ TÄSSÄ VIELÄ KAIKKI!
Jos toimit nopeasti, on valittavanasi myös yksi Suomen virallisista vähemmistökielistä eli SAAME.
TIESITKÖ!
Saamelaisia asuu Suomessa, Ruotsissa, Norjassa ja Venäjällä.
Saamelaiskieliä on useita erilaisia.

■語句・文法
vähemmistö-kielistä「少数派言語のうち」［複出］< -kieli

●フィンランド語理解のための訳例
まだこれだけではない！
あなたが急いで行動すれば｜あなたが選べるものとしてある｜フィンランドの公的な少数派言語のうちの一つも｜つまりサーミ語が。
知っているか！
サーミ人たちは住んでいる｜フィンランドに、スウェーデンに、ノルウェーに、そしてロシアに。
サーミ語はある｜いくつか｜異なるような。

◎意訳
まだまだこれだけではありません！
あなたがすばやく行動すれば、フィンランドの公的な少数派言語のうちの一つ、サーミ語も選べるのです。
ご存知ですか！
サーミ人たちはフィンランド、スウェーデン、ノルウェー、そしてロシアに住んでいます。
そしてサーミ語にはいくつかの種類があるのです。

【19経済ニュース―フィンランドの重要産業は？

Talousuutisia. Uusimman tutkimuksen mukaan Suomi tunnetaan maailmalla monista huipputuotteista. Suomalaiset yritykset valmistavat puusta ohutta valkoista liuskaa, jolle voi vaikkapa piirtää. Tunnettuja ovat myös pienet muovirasiat, joilla voi siirtää puhetta ilman halki. Metallista puolestaan valmistetaan valtavia kelluvia huvittelupaikkoja. (sivu 30)

■語句・文法

uusimman「もっとも新しい」［属］< uusin 最 < uusi／huippu-tuotteista「トップの製品について」［複出］< -tuote／liuska「細長いもの、シート、ページ」／jolle「それへ」［向］< ［関代］joka／tunnettuja「知られているような」受過分［複分］< tuntea／muovi-rasia「プラスチックの小箱」／puolestaan「一方で」［出］＋単 3 所接 < puoli／valtava「巨大な」／kelluvia「浮かぶような」能現分［複分］< kellua／huvittelu「楽しむこと、アミューズメント」< huvitella < huvittaa < huvi

●フィンランド語理解のための訳例

経済ニュースだ。最新の調査によれば｜フィンランドは知られている｜世界で｜多くのトップの製品について。フィンランドの企業は製造している｜木から｜薄い白い細長いものを、｜その上には、たとえば描ける。知られているのは｜また小さなプラスチックの小箱だ｜それにより移動させることができる｜発言を｜空気中を横切って。金属からは｜一方で｜製造される｜巨大な浮かぶ娯楽場所が。

◎意訳

さて、経済ニュースです。最新の調査によれば、フィンランドは多くの一流製品により世界で知られています。フィンランドの企業は、たとえば絵を描くことができる白く細長いものを木から製造しています。また有名なのは、空中を伝わって音声を移動させることのできる小さなプラスチックの箱です。一方、金属からは巨大で浮遊する遊園地が製造されています。

★補足

フィンランドの産業についてはご存じでしょうか。それについて説明しているのがこの文章ですが、もちろん絵が添えられています。そこに何が描かれているか、答えは最後のページに書いておきます。この本を自分で読もうと考えている方は、くれぐれも最後のページを見ないようにしてください。

【20】続いて社会へ目を向ける―フィンランド教育は世界的に有名

Jatkamme yhteiskunnallisella aiheella. Suomi-uutisten saaman tiedon mukaan 7-16 -vuotiaat suomalaiset istuvat päivittäin monta tuntia isoissa rakennuksissa. Näiden tuntien aikana he saavat paljon tietoa, kansainvälisen vertailun mukaan jopa enemmän kuin monien muiden maiden nuoret. Hienoa!

■語句・文法

saaman「入手したような」動分［属］< saada／päivittäin「日ごとに、毎日」< päivä

●フィンランド語理解のための訳例

我々は続ける|社会的な話題で。Suomi ニュースが入手した情報によると、7 歳から 16 歳のフィンランド人は座っている|日ごとに何時間も|大きな建物の中で。この時間の間に|彼らは得る|たくさん知識を、|国際比較によれば、さらによりたくさん|多くの他の国々の若者たちよりも。すばらしい！

◎意訳

次は社会的な話題に移りましょう。Suomi ニュースが入手した情報によれば、7 歳から 16 歳のフィンランド人は 1 日に何時間も大きな建物の中に座っているとのことです。この時間に彼らは多くの知識を習得しており、国際的な比較によれば、他の多くの国々の若者たちよりもさらに多くの知識を学んでいるとのことです。すばらしいですね！

★補足

OECD（経済協力開発機構）は 2000 年代初めから PISA（Programme for International Student Assessment）と呼ばれる 15 歳の人々の学力調査を実施していますが、フィンランドの子どもたちの学力が高いという評価を得て「学力世界一フィンランド」などという言葉も飛び交いました。そのことを念頭に書かれたのが【20】の文章だと思います。ただ、フィンランドの学校では「体を動かすことが学力を高める」という考え方もあり、むしろ日本の学校などより椅子に座って過ごす時間は少ないのではないかと思います。さらに年間の授業時間も少ないことが知られています。

さて、最後に紹介するのは「典型的なフィンランド人」を描いたページの一部です。そこでは、北の厳しい環境に適応したフィンランド人をおもしろおかしく描いています。ここでは、まずフィンランド人の好物について、その後はフィンランドの民族楽器である kantele を履いたフィンランド人についての解説を取り上げます。

【21】フィンランド人は「黒いもの」が大好き

Mustia asioita, joista suomalaiset pitävät:
KAHVI – pahanmakuista
MÄMMI – pahanmakuista
SALMIAKKI – pahanmakuista
JÄÄKIEKKO - pahanmakuista

■語句・文法

mämmi「マンミ」（ライ麦粉や麦芽などを原料に作る料理で、とくに復活祭のときに食べるデザート）／salmiakki「サルミアッキ（甘草、リコリスなどの成分を使用したお菓子）；塩化アンモニウム」／jää-kiekko「アイスホッケー（ゲーム）、アイスホッケーで使う丸い形をしたパック」

●フィンランド語理解のための訳例

黒いもの|それらをフィンランド人たちは好む：

コーヒー—悪い味の
マンミ—悪い味の
サルミアッキ—悪い味の
アイスホッケーのパック—悪い味の

◎意訳

フィンランド人たちの黒い好物：
コーヒー—まずい
マンミ—まずい
サルミアッキ—まずい
アイスホッケーのパック—まずい

★補足

たしかにフィンランド人が好きなものは変わった色をしたものが多いかもしれません。サルミアッキの黒い色を見たときは少し驚きましたが、日本でも黒い海苔や海苔をまいたおむすびがあることを思えば、不思議なことではないかもしれません。さて、最後にとっておきのテキストです。*Tatun ja Patun Suomi* の 4 ページと 5 ページでは、典型的なフィンランド人に関する二人の研究成果が示されています。テキストはもちろん絵を見ていただく必要があるのですが、何とかしてください。典型的なフィンランド人は頭にはサウナで使うような木の桶をかぶり、腰にはやはりサウナで体を叩くための vihta/vasta をまとっています。そのフィンランド人が履いているのが民族楽器の kantele です。弦が 5 本あり穴が開いている kantele ですが、その穴に足を突っ込んでいます。そこには次のような説明文がつけられています（kantele を見たことがない方は、まずはインターネットなどで kantele の写真を見てから読んでください）。

【22】kantele は楽器だった？それとも靴だった？

Puiset lumikengät kantelevat hyvin lumen pinnalla.

■語句・文法

lumi-kenkä「雪靴」／pinta「表面」

●フィンランド語理解のための訳例

木製の雪靴はよくもちこたえる｜雪の表面で。

◎意訳

私の能力では意訳できません。

★補足

kantelevat という動詞のもとの形は kannella ですが、おそらく辞書には載っていません。これは kantaa「もちこたえる、沈まない」に-ella という接辞をつけて派生した語です。-ella は本来は反復や

継続を表す接辞で、たとえば kysyä から派生した kysellä という動詞は「何度も質問する、質問して回る」といったニュアンスだろうと思います。ですから、上の文章に出てくる kantelevat は「ずっと沈まない、何度ももちこたえる」といった意味なのでしょう

さて、上の文章の主語 puiset lumikengät ですが、絵本を見るとフィンランド人が履いているのは二つの kantele です。そして、動詞となっているのが kantelevat です。もちろん、もうお分かりですね、kantelevat の中に何が隠されているのか。ですから、このテキストを日本語に翻訳することはできないわけです（少なくとも私の能力では、ですが）。

◆出典

【1】:

Taide. *Oodi*. [https://www.oodihelsinki.fi/mika-oodi/taide/] (最終閲覧日：2023.5.13）

【2】、【8】～【22】:

Havukainen, Aino & Sami Toivonen. 2007. *Tatun ja Patun Suomi*. Otava.

【2】: 1 ページ、【8】: 2 ページ、【9】: 16 ページ、【10】: 17 ページ、【11】: 18 ページ、【12】: 19 ページ、【13】: 20 ページ、【14】: 21 ページ、【15】【16】: 22 ページ、【17】【18】23 ページ、【19】: 30 ページ、【20】: 31 ページ、【21】【22】: 4 ページ

【3】～【7】:

Vaarala, Noora. 2018. Huippusuositun Tatu ja Patu -sarjan tekijät jättäisivät nykyään yhden kirjansa tekemättä ja paljastavat, miksi hahmot saattavatkin olla naisia. *Helsingin sanomat, 23.9.2018.* [https://www.hs.fi/kulttuuri/art-2000005837739.html]

****
🐍蛇足

私自身は絵本や児童文学のことはよくわかりません。ただ、言語の勉強などにおいて「児童文学や絵本はやさしいので教材にするとよい」と言った発言を耳にすることがありますが、これには賛成できません。*Tatun ja Patun Suomi* などはよい例ですが、絵本や児童文学を舐めてかかってはいけません。そもそも、子どもたちのもつ言葉に対する感覚は我々大人よりもずっと鋭敏なものだと思いますし、そのことをよく知っている作家たちは、ある意味で子どもたちのそういう感覚に挑戦しようとしているのではないかと思ったりします。

一方、インタビューから読み取れる作者の考え方については、それぞれご意見がおありでしょう。ただ、このインタビュー記事を読んで私がすぐに思い出すのが、かつて日本で放送されたテレビ・コマーシャルです。その中で、日本でおそらくもっとも有名なフィンランドの児童文学の主人公たちが一生懸命に売り込んでいるのはなんと自動車でした（この児童文学と、その作者のことはⅡ-6の資料で取り上げる予定です）。この作者は自分の作品が日本でアニメ化される際に「お金なし、機械なし、喧嘩なし」といった注文をつけたという話もありますが、いずれにしても作品の世界観と「自動車」というものがどうしても私の中では両立しませんでした。というより、作品の世界観が見事に破壊されているように感じて、ひどく悲しい気分になったことを思い出します。

【18】の解答：紙、携帯電話、クルーザー（船）